

平成25年度第1回島根県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日時

平成25年7月22日（月） 13:30～16:30

2. 場所

島根県市町村振興センター 中会議室

3. 出席者

（委員）

小林委員長、宮脇委員、渡部委員、服部委員、渋川委員

（公立大学法人島根県立大学）

本田理事長、小池副理事長、小室事務局長、斎藤事務局次長、山口総務課長、
桐田財務課長、澤井企画員、福井企画員、錦織主任

（事務局）

楫野総務部長、栗原総務課長、曳野学事GL、向田主任主事

4. 議題等

（1）会議公開・非公開の決定

（2）議事

①実績報告

ア) 平成24年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

イ) 第一期中期目標期間公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

②実績評価

ア) 平成24年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について

イ) 第一期中期目標期間公立大学法人島根県立大学実績評価について

5. 会議の概要

（1）会議公開・非公開の決定

島根県情報公開条例第7条第5号及び第34条の規定により、非公開が適当との事務局発言があり、委員に諮られたところ了承された。

（2）議事

①実績報告

ア) 平成24年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告

公立大学法人島根県立大学の本田理事長から、資料2に基づき、平成24年度の公立大学法人島根県立大学の業務実績について説明が行われた。また、評価委員との間で質疑応答が行われた。

<本田理事長説明内容の概要>

平成23年度指摘事項について、資料2該当箇所（90頁、91頁、98頁、48頁、51頁）を参照し、取組状況と成果について説明。

資料2（4～6頁）に定める10の重点項目について、成果を上げた項目として説明。

<質疑等概要>

- ・未来ゆめ基金について、現時点でどのくらい集まっているか。
→1年経過していないが、300万円程度。
- ・留学生に対する奨学金による支援はどのようになっているか。
→島根県、浜田市からの奨学金がある他、大学の授業料免除措置もある。
- ・海外企業研修について、成果をもっと外に出す方法を考えては。
→インドの研修については、ビデオ撮影したものをホームページで公開している。また、帰国後インドに半年留学した学生が出ており、学生に強い印象を与えた。
- ・入試制度改革の内容は、どのようなものか。（小林委員長）
→これまで3教科型の入試制度であったが、高校側からの要望も踏まえ5教科型の制度を導入した。推薦についてはAO、全国、県内の区分であったものを自己推薦（学校推薦枠は撤廃）に再編した。
- ・成績上位者をより伸ばすような教育を実践してもいいのでは。
→カリキュラムや英語教育を編成し直し、結果として5人の学生が留学することとなっている。
- ・県立大学に特色を持たせるために、ロシアに留学生を送るのも大事では。
→海洋国立大学とは交流があり、先方が交流に積極的。県大からは毎年継続的に学生を派遣している。ただ、浜田キャンパスとは専門性があまり重ならない。
- ・国外から県大への留学の状況はどうなっているか。
→留学生は43名おり、8割が中国、2割が韓国、後はモンゴル、ロシア。欧米からの留学生がいないことが課題。
- ・大学認証評価では、何が課題として指摘されたか。
→大学院における学位授与方針の明確化、課程教育の充実、学位を授与する際の在籍関係についてであった。
- ・情報セキュリティについては、人の教育が重要。

イ）第一期中期目標期間公立大学法人島根県立大学業務実績報告

公立大学法人島根県立大学の本田理事長から、資料7に基づき、第一期中期目標期間公立大学法人島根県立大学の業務実績について説明が行われた。また、評価委員との間で質疑応答が行われた。

<本田理事長説明内容の概要>

資料7（5～17頁）に記載されている内容について、総括及び重点的に取り組んだ結果について説明。

<質疑の概要>

- ・栄養士の免許を生かした就職率について、次の中期目標ではより高い目標設定にしてはどうか。

→経済状況等による影響も受けるので、現状を可能な限り上回るというような設定がよいと考えている。

- ・卒業生の離職率の調査は実施しているか。

→GP事業により実施したこともあるが、全てを把握するのは難しい。

同窓会加入率の引き上げに取り組んでおり、同窓会活動を支援することにより卒業生の状況を把握していきたい。

- ・キャリア支援について、最近の取り組み状況はどうか。

→キャリア支援室、キャリアセンターを3キャンパスに設置している。今後は卒業生の相談にも対応していきたいと考えている。

- ・出雲キャンパスのチューター制度以外で学生支援の方法はあるか。

→浜田キャンパスでは、ティーチングアシスタント、ステューデントアシスタントの制度がある。身近な上級生が下級生を支援することで、説得力のある支援を実施している。

②実績評価

ア) 平成24年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価

事務局から、資料4により公立大学法人島根県立大学から提出された業務実績報告書のうち5段階評価をする項目の自己評価と、事務局で検証した結果が示された。

さらに、資料3により評価のポイントが示され、一部について評点を変更すべき項目があるとの説明がされた。

イ) 第一期中期目標期間公立大学法人島根県立大学実績評価

事務局から、資料9により公立大学法人島根県立大学から提出された業務実績報告書のうち5段階評価をする項目の自己評価と、事務局で検証した結果が示された。

さらに、資料8により評価のポイントが示され、一部について評点を変更すべき項目があるとの説明がされた。

<評価結果のポイントに対する主な委員質疑・意見>

- ・時代にあわせて、NEARセンターも南アジアの方にも目を向けてはどうか。
- ・エコキャンパスについて、コストとエコは両立しない面がある。

→多くの事業に取り組めば、紙の使用量が増えることもある。

- ・情報セキュリティについては、外部の専門家から意見を聴いたほうがよい。
- ・目標は定量的なものにしなければいけない。また、評価項目が多すぎる。例えばカレントであれば、年に何回実施して参加者が何人かというようにしないと
いけない。「実施した」で「AA」の評価にするのは安易では。

→6ヵ年でどのような評価にするかとなると、必ずしも明確にできないところもあるので、大学側からのヒアリング等で評価をつめた。